

「話すこと」領域のパフォーマンステスト実践事例

A 高校	1 学年	実施した科目：英語コミュニケーション I
------	------	----------------------

生徒に身に付けさせたい力（「話すこと」[発表] 領域）：
 身近な事柄について、適切な表現を用いて事前に自分の意見と根拠をまとめ、まとまりのある内容をスムーズに発表できる。（CAN-DO リスト（話すこと（発表））GRADE 2 ②）

事例：

1 単元の目標（話すこと [発表] に関して）

スピーチの場面で、身のまわりの出来事について、体験した内容を基に、聞き手を引きつけながらわかりやすく自分の考えや気持ちを話して伝えることができる。

2 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 情報や考えを述べるために、必要となる語彙や表現、音声等を理解している。 身のまわりの出来事についての情報や考えなどを理由とともに話して伝える技能を身に付けている。 	<p>聞き手に自分が犯した間違い（失敗）やそこから得た教訓が伝わるように、理由とともに説得力を持って詳しく話して伝えている。</p>	<p>聞き手に自分が犯した間違い（失敗）やそこから得た教訓が伝わるように、理由とともに説得力を持って詳しく話して伝えようとしている。</p>

3 テストについて

(1) 場所

教室内

(2) 内容

愚かな間違い（失敗）をしてしまったときの話をクラスメイトと共有しよう

(3) 準備物

タブレット端末（各生徒 1 台）、タイマー、パフォーマンステストに関するシート【資料 1】

(4) 実施時間等

1 クラス（40 人）当たり 1 単位時間（40 分）程度での実施を想定

(5) 方法

<事前の準備>

- 教科書の流れに沿って、発表のためのブレインストーミングやタイムラインの作成を行う。
- 【資料 1】を示して、ペアや個人で発表の練習を行う。

<テスト当日の流れ>

- ペアで、それぞれスピーチを行い、タブレットで動画を撮影する。
- 撮影した動画を元に、ペアで改善点を出し合い、よりよいスピーチになるように練習する。
- グループ（4 人程度）になり、以下の方法で 1 回目の発表をする。
 - じゃんけんで最初の発表者を決める。
 - 1 人が発表者、1 人が動画撮影者、残り 2 人が聴衆役となり、発表を行う（1 分程度）。
 - 1 人が発表後、1 分間で、聴衆役の 2 人は「感想」と「改善点」を伝える。
 - 次の発表者に移り、上記の(1)～(3)をくり返す（1 セット 3 分程度）。
- 1 回目の発表の反省を生かして、再度練習する（5 分程度）。
- 再度同じグループになり、1 回目と同じ方法で、グループで 2 回目の発表、撮影をする。
- 撮影した動画のよりよくできたと思う方を、Google Classroom 上で提出する。

<採点>

- 教師は、授業後に録画映像を見て、次に示す採点の基準によって評価する。

(6) 採点の基準

次の採点の基準によって評価する。「思考・判断・表現」については、4つの条件をすべて満たしていれば「b」（おおむね満足できる）としている。

○「思考・判断・表現」についての条件

条件1：主に「過去進行形」などを使って、場面設定をする。
条件2：「過去形」を使って、ほとんどの部分を時系列で話す。
条件3：いくつかの情報について、最初はあえて話さないでおき、話の半ば～後半部分で、「過去完了形」を使ってそれを聴衆にとっての「驚き」となるように紹介する。
条件4：「教訓」になるようなことを含める。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a	ほぼ間違いがなく、語いや文法、表現が適切に使用されている。	「4つの条件」をすべて満たした上で、自分が犯してしまった愚かな間違い（失敗）について、説得力を持って詳しく話して伝えている。	しっかりとカメラ（聴衆）を見ながら、適度な声量と抑揚を持って、自分が犯してしまった愚かな間違い（失敗）について、詳しく話して伝えようとしている。
b	多少の誤りはあるが、理解に支障のない程度の語いや表現を使って話して伝えている。	「4つの条件」を満たして話して伝えている。	原稿（メモ）に目を落とし、時折、カメラ（聴衆）から目を離してしまうこともあるが、概ね適度な声量と抑揚を持って、自分が犯してしまった愚かな間違い（失敗）について話して伝えようとしている。
c	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。	「b」を満たしていない。

4 テストまでの指導について

目標設定と共有

- ・単元の目標、評価規準を生徒と共有する。
- ・パフォーマンステストの内容と採点の基準を生徒と共有する。

授業での活動（Unit Activity）（3時間程度の授業を想定）

- ・自分がしてしまった愚かな間違い（失敗）に関するモデルスピーチを視聴し、発表をする上でのポイントを確認する。
- ・自分自身がしてしまった愚かな間違い（失敗）に関して、ブレインストーミングをし、発表の内容を決める。
- ・タイムラインを作成し、出来事が起こった順序を確認する。その際、「過去完了」を使って、聞き手にとって「驚き」となるような順序で伝えるようにする。
- ・パフォーマンステストの内容を共有し、【資料1】で評価規準を確認する。
- ・ペアや個人で発表の練習をし、パフォーマンステストに備える。

指導上の留意点

- ・聞き手に分かりやすい声の大きさや、速度、発音で話すよう指導する。

5 フィードバック

- Google Classroom 上で、事前に生徒に示した評価規準（ルーブリック）に基づいて担当者が評価をする。
- Google Classroom 上の「限定コメント」で、評価とともに必要に応じてコメントを加えて、返却する。
- 授業において、学年全体で特に優れた発表をよかったポイントとともに共有する。

本実践の検証と今後の課題について：

スピーキング力は、定期考査や模擬試験等では測ることができないため、このようなパフォーマンステストの実践の客観的な成果の検証は、次年度のこの事業における「英検」の結果で行っていきたいと考えている。

今後の課題として、話すこと（発表）はこのようなパフォーマンステストで評価する（その準備に取り組むことによるスピーキング力の向上も含めて）ことができたが、話すこと（やりとり）のテストは、また別の形態を考えていく必要がある。次年度は、2 学年となるので、ペアでのやりとりだけでなく、ディベートやディスカッション等をパフォーマンステストの内容として取り上げ、話すことの向上につなげていきたい。また、1 人 1 台端末や Google Classroom を利用し、テスト実施の効率化と生徒のテストに取り組むことを通しての英語力の向上、採点の正確性の向上につなげていきたいと考えている。